

# 10. 令和2年度 神奈川県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

## 聖マリアンナ医科大学病院

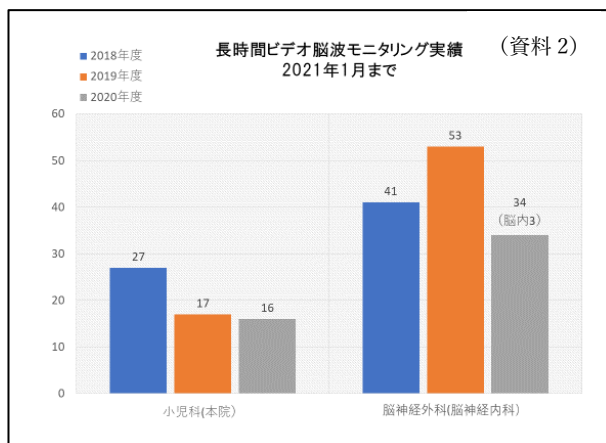
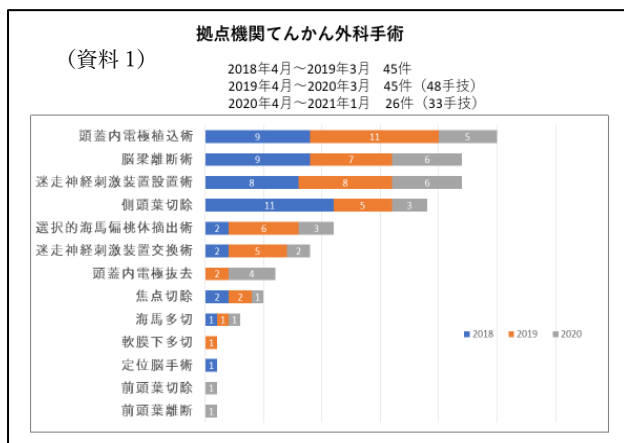
てんかんセンター 顧問 山本仁 副センター長 太組一朗

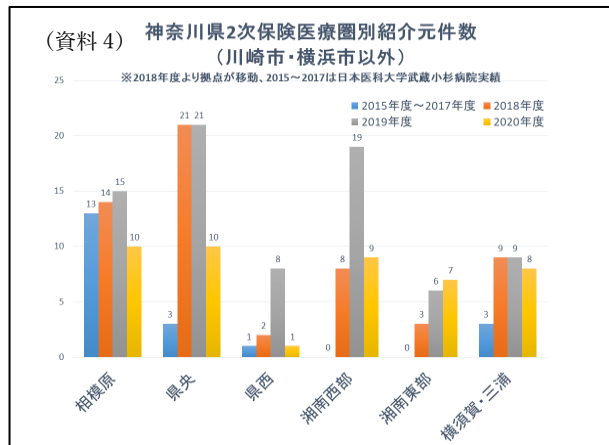
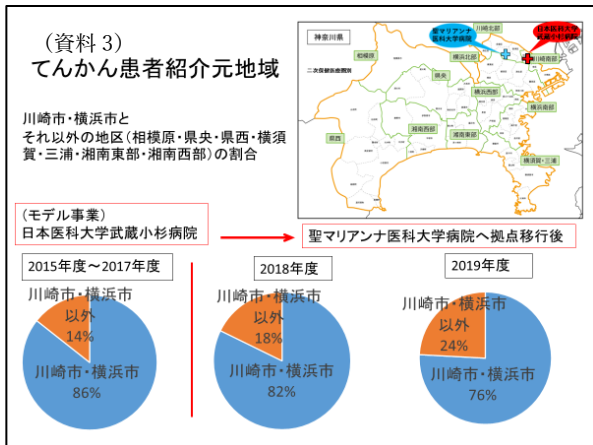
### 1. 神奈川県てんかん診療拠点機関としての取り組み

聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンターは2017年10月に開設し、聖マリアンナ医科大学病院が2018年4月より神奈川県のとんかん診療拠点として指定され、3年が経過しようとしている。今年度の拠点機関内での取り組みとしては、1) 難治てんかんへの高度な治療の提供、2) 複数科からなる包括的な医療の体制の整備、2) 専門医・コメディカルの育成、3) 院外からの参加も受け入れる多職種のとんかん症例カンファレンス、4) 基礎・臨床研究・治験の推進、等を引き続き行ってきた。また対外的には、1) てんかん診療に関わる医師、政令市、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等をメンバーとしたてんかん医療・社会連携協議会の運営、2) 県民に向けて普及啓発活動、3) 医療、福祉関係者への研修、病院やてんかんセンターHP、行政の広報、新聞等のメディアを通じて、拠点事業やてんかんセンターに関する情報発信を行っている。

### 2. てんかんセンター診療実績

1) てんかん外科手術：2018年度45件、2019年度45件、2020年度(4月～1月)26件。内訳は(資料1) 2) 長時間ビデオ脳波モニタリング：2018年度68件、2019年度70件、2020年度(4月～1月)50件。(資料2) コロナ禍で一時期手術、長時間ビデオ脳波モニタリング共にストップしたため、全体の数としては前年度より減少しているが、現在は通常のペースに戻っている。3) てんかん受診外来患者数(延べ人数)：2018年度17,126人、2019年度16,354人、2020年度(4月～1月)12,119人。入院患者数(延べ人数)：2018年度358人、2019年度485人、2020年度(4月～1月)338人。紹介件数：2018年度422件、2019年度442件、2020年度(4月～1月)378件。2020年2月頃から患者数は全体的に減少傾向だが、新型コロナウイルス流行の影響が考えられる。紹介患者の紹介元の地域分布を見ると川崎市、横浜市からが多数を占めるが、横浜市、川崎市以外の地域からの割合も徐々に増加傾向にある。(資料3) 今年度は遠方からの紹介数はやや抑えめだが2018年度からは厚木市、海老名市等の県央からの紹介が増え、2019年度は特に伊勢原市、平塚市等の湘南西部地区や藤沢市、茅ヶ崎市等の湘南東部地区からの紹介が増えている。(資料4) 紹介元の医療機関数は2018年度の255施設を起点として2019年度には168施設増加、2020年度には1月までで更に118の新たな施設から紹介があり、3年間で延べ541施設となっている。てんかん相談件数：2018年度100件、2019年度275件、2020年度(4月～1月)154件。今年度、コロナの時期から相談件数は一旦減少しているが主に難治のケースの相談は増加しており、当院はてんかんの高度な治療を行う専門機関としての認知が広がっている。相談者の居住地域は広範囲にわたり、県外からも相談が寄せられ、インターネットによる情報発信の成果が見える。





### 3. 啓発活動

神奈川県では、てんかん診療の行き届いていない地域へ向けて広く啓発を行う事に重点を置き、県内の各地で研修会、公開講座等を行ってきたが、今年度は、人を集めての研修や公開講座の実施が困難であったため、WEBを活用した啓発活動の方法について模索した。非常事態宣言発令前の12月には、会場とWEBを併用し、専門職向けの研修会と市民向け公開講座を行った。申込者は200名程で、動画視聴回数は2つの講座の合計で1000回を超えた。公開講座とともに毎回実施している個別の相談会も対面と、Zoom併用で行い、WEBでの実施は安全性、利便性が高いことからアンケートでも評判が良く、WEBを活用しての啓発活動の可能性を実感した。3月には別テーマでの研修・公開講座の実施を予定しているが、今回は講座、個別相談共に完全にWEBのみとする。また、毎年実施しているパープルデーライトアップについても、3月に例年通り行う予定となっており、県内の5施設での実施を予定している。こちらもYouTubeを活用した、映像の配信等を検討している。また、地域の連携施設に向けては、当院メディカルサポートセンター主催の地域医療連携WEBセミナーが行われ、てんかん診療拠点について、地域の連携施設に向け講演を行った

### 4. 協議会

てんかん診療に関わる医師、政令市、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等をメンバーとしたてんかん医療・社会連携協議会は、今年度1回目はメールによる報告や審議を行った。3月には2

てんかんの研修会・市民公開講座  
難治てんかん患者さん個別相談会を  
聖マリアンナ医科大学病院で実施いたしました

令和2年12月13日(日)  
聖マリアンナ医科大学  
病院3階大講堂

参加者 会場 24名  
WEB 171名  
個別相談会参加者 7名

てんかんの研修会  
市民公開講座 WEB開催  
要申し込み

【同時開催】難治てんかん患者さん個別相談会 (WEB)

実施日時 2021年3月20日(土・祝)  
13:00～15:45

座長 太組 一朗先生 聖マリアンナ医科大学脳神経外科 准教授

講師 原 恵子先生 脳クリニック 院長  
「知っておきたいてんかんと関連する精神症状」

講師 寺田 清人先生 てんかんと関連する検査法と治療の最新情報 脳クリニック 院長  
「正しく知って、てんかん。」

PurpleDay Light Project  
in Kanagawa 2021  
3月19日(金)～3月26日(金)

【てんかん】の啓発キャンペーン「パープルデー」を知っていますか？  
神奈川県内の5つの施設がてんかんイメージカラーのイメージカラーにライトアップされます

【3月19日(金)～26日(金)】  
【会場】  
【お問い合わせ】

聖マリアンナ医科大学病院地域連携WEBセミナー

てんかん治療がむずかしいとき  
—神奈川県てんかん診療拠点病院のご案内—

聖マリアンナ医科大学病院 てんかんセンター副センター長  
脳神経外科教授

回目の協議会をZoomにて行う予定となっている。協議会の運営により、行政とタイアップした研修の機会を多く設けてきたが、今年度は実施が難しかった。今後WEBも活用し、行政機関、教育機関等多方面に向けての啓発や研修機会を設ける事を検討していく。協議会の参加メンバー、施設等は表の通りとなっている。

#### 4. その他取り組み

拠点機関の役割として、複数診療科による集学的治療の体制を整備することが重要であり院内では、1) 医師、看護師、コメディカル等あらゆる職種をメンバーとするてんかんセンター運営委員会（3か月毎開催）、2) 複数科の医師、コメディカルが参加するてんかん症例カンファレンス（週

	所属先・推薦団体等	役職（職種等）
1	聖マリアンナ医科大学病院	特任教授・小児科 てんかんセンター 顧問
2	聖マリアンナ医科大学病院	准教授・脳神経外科 てんかんセンター副センター長
3	聖マリアンナ医科大学病院	教授・小児科 てんかんセンター センター長
4	北里大学病院	診療教授・小児科
5	日本医科大学武蔵小杉病院	准教授・小児科
6	重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎	副施設長・小児科
7	横浜市立大学附属病院	主任教授 神経内科学・脳卒中医学 神経内科・脳卒中科部長
8	横浜医療福祉センター港南	センター長
9	原クリニック	院長
10	川崎市立多摩病院	准教授・小児科部長
11	神奈川県立こども医療センター	神経内科部長
12	東海大学医学部付属病院	講師・神経内科
13	神奈川県医師会	理事
14	神奈川県労働局 職業対策課	地方障害者雇用担当官
15	てんかん診療支援コーディネーター (聖マリアンナ医科大学病院)	社会福祉士
16	日本てんかん協会	当事者
17	日本てんかん協会	家族
18	神奈川県健康医療局保健医療部	精神保健医療担当課長
19	川崎市精神保健福祉センター	センター長
20	川崎市健康福祉局障害福祉部 精神保健課	課長
21	横浜市健康福祉局障害福祉部 精神保健福祉課	精神保健推進担当課長
22	相模原市健康福祉局福祉部精神保健福祉課	課長

1回)等を行っており、今年度カンファレンスは2月までで28回実施された。徐々に院外からの参加者も増加し、現在は8施設、参加者は延べ40名程となっている。てんかん診療に関わる複数の職種の職員が集まり意見交換やスキルアップを行う場を多く設けている。

#### 5. 今後の課題

神奈川県は人口905.8万人に比して専門医41名とその数は少なくかつ偏在しており、未だ県内のてんかん医療の均てん化には課題を残している。また神奈川県内の専門医の診療科は41名中小児科27名、脳神経外科6名、脳神経内科5名、精神科3名と偏りがあり、大人を診る専門医の数は特に少ない。小児からのトランジション等についても課題があり、今後も引き続き県内の医療連携体制の構築に力をいれ、てんかん患者が適切な医療を等しく受けられるような環境を整備していく必要がある。